

第2回地域・コミュニティ部会の主なご意見と対応の方向

テーマ	部会でのご意見	対応の方向	想定される取組例
全般に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>● メッセージとして端的に伝わる内容とすべき（杉岡部会長）</li> <li>● 中心的な取組のポイントを明確にし、キーワードを際立たせた方がよい（杉岡部会長、梶井委員、五十嵐委員）</li> <li>● 柱ごとに記載する項目の順番も重要である（梶井委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 端的な表現およびポイントの明確化に努めて項目名・文言を修正</li> <li>● 項目の記載順序を一部入れ替え</li> </ul>	
支援を必要とする市民が孤立することなく、優しく包容される地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「社会的包摂」あるいは「包容」「生活支援」等のキーワードで明確に表してはどうか（五十嵐委員）</li> <li>● 幹としては「住民同士のつながりと支え合い」がポイントになる（福士委員）</li> <li>● 自分で支援にたどり着けない方、声なき困っている方をいかに見つけるかが重要であり、都市の新しい課題（五十嵐委員）</li> <li>● 地域に密着したソーシャルワーカーは、高齢者ばかりでなく、一人親家庭や子どもを視野に入れることも重要（五十嵐委員）</li> <li>● 「歩いて暮らせるまちづくり」を考える際には、拠点となる場をはりめぐらせておく必要がある（杉岡部会長）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 柱に「包容」をキーワードとして記載</li> <li>● 「見守り活動の充実強化」だけでなく、住民同士の支え合いによる「孤立しない地域づくり」に項目名・文言を修正</li> <li>● 「地域に密着したソーシャルワーカー」の例示を概念化し、「支援を必要とする市民を適切に把握して支援する体制の構築」に文言修正</li> <li>● 「歩いて暮らせるまちづくり」についても例示を概念化し、「身近な日常生活圏に必要な機能の誘導」に文言修正</li> <li>● 拠点となる場の整備については、「地域資源の創出・活用」の柱に項目として記載</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域住民同士による見守り、支え合い活動の推進</li> <li>● 訪問相談、個別支援の強化</li> <li>● 地域と保健・福祉・医療のネットワーク推進</li> <li>● 学校など身近な避難場所等における防災訓練の実施</li> </ul>
すべての市民が社会に参加し、共生する地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「地域活動への参加促進」等で表してはどうか（五十嵐委員）</li> <li>● 「多様な市民」という表現よりは「すべての市民」が参加し、支え合うとすべき（梶井委員）</li> <li>● 地域の中で子どもをいかに育てることができるかということは重要な課題（杉岡部会長）</li> <li>● 「共生型サロン」という表現について、すでにコミュニティサロンなどの取組も進んでいるので、表現を変えてはどうか。（福士委員）</li> <li>● 「共生型サロン」は地域資源、たまり場でもあるので必要な機能として位置づけるべき（五十嵐委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 柱に「社会参加」「共生」をキーワードとして記載</li> <li>● 「多様な市民」から「すべての市民」に文言修正</li> <li>● 「子どもの社会体験等の充実」から「子どもを地域全体で育てる環境づくり」に項目名・文言を修正</li> <li>● 「共生型サロン」について、「共生」を概念化して文言修正し、「サロン」については市民の居場所として「地域資源の創出・活用」の場の一つとして整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多世代や障がい者との交流促進による地域で共生する環境づくり</li> <li>● 子どもや若者のまちづくり活動への参加促進</li> <li>● ひきこもりやニートなどの社会的自立支援</li> <li>● 高齢世代が地域で活躍できる環境づくり</li> </ul>
住民同士のつながりによる地域資源の創出・活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「基盤」「環境づくり」という表現よりは「社会的資源・地域資源の活用と新たな資源の創出」等の表現が適切ではないか（杉岡部会長、五十嵐委員）</li> <li>● まちづくりセンターには、地域のまちづくりをフォローできる機能や施設のしつらえ、人的な配置を備える必要がある（杉岡部会長）</li> <li>● 地域活性化を担う人材がいる地域といない地域があることが課題であり、ニーズに即した支援を行っていくべき（星野委員）</li> <li>● 地域のことは地域が一番よく分かっており、まちづくりセンターの自主運営化はメリットになる（福士委員）</li> <li>● 「人」「仕組み」「場」という項目を位置づけることで市民にも分かりやすい内容になる（浅香委員）</li> <li>● 個人に限らず法人も含めてコミュニティの中で役割を戦略的に位置づけることが重要（梶井委員、五十嵐委員）</li> <li>● 地域の中に一人一人の居場所を創り出していくことを目指すべき（杉岡部会長、五十嵐委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 柱に「地域資源の創出・活用」をキーワードとして記載</li> <li>● まちづくりセンターについて、「地域活動の支援・調整機能の強化」を文言修正</li> <li>● 住民同士のつながりや地域コミュニティを促進するための「仕組み」「場」「人」づくりとして文言修正</li> <li>● 地域活動における活動主体の一つとして「企業」を位置づけ</li> <li>● 市民の「居場所」、地域活動の「拠点」としての場づくりとして文言修正</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● まちづくりセンターの地域支援機能の強化</li> <li>● 町内会などの住民組織と他の団体、NPO等との連携の促進</li> <li>● 空き家などを活用した市民のたまり場、地域の活動拠点づくりの推進</li> <li>● 地域活動の担い手となる人材の発掘・養成</li> </ul>